



Title	メタフシカ 第35号 彙報
Author(s)	
Citation	メタフシカ. 2004, 35, p. 127-127
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/8523">https://hdl.handle.net/11094/8523</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 【彙報】

### ○ 哲学哲学史

現在、専門分野・哲学哲学史には、学部生として2年生4名、3年生7名、4年生11名が在籍しており(哲学・思想文化学所属)、また、大学院生としては博士前期課程6名、後期課程8名が在籍して研究に従事している。本年度からは、上野修教授と舟場保之助教授がスタッフに加わり、入江幸男教授、吉永和加助手とともに、専門分野・文化基礎学や現代思想文化学や臨床哲学所属の各教員と連携しつつ、教育・研究指導に当たっている。

本年度の講義・演習は「問答の意味論的分析Ⅰ、Ⅱ」「Quinを読む」(入江教授)、「真理と主体Ⅰ、Ⅱ」「ライプニッツを読む」「フランス近・現代哲学史概説」(上野教授)、「コミュニケーション論の諸問題Ⅰ、Ⅱ」「カント『純粹理性批判』を読むⅠ、Ⅱ」(舟場助教授)という題目で行われている。またその他に、現代思想文化学の教員・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表、討論がなされている。

また、非常勤講師としては、伊豆蔵好美先生(奈良教育大学)、大橋容一郎先生(上智大学)、鹿野忠良先生(本学理学部)、藤本温先生(名古屋工業大学)、美濃正先生(大阪市立大学)をお招きし、先生方にはそれぞれ、「ホッブズと17世紀哲学の諸問題」(伊豆蔵先生)、「カント哲学の世界概念と認識地平」(大橋先生)、「文科と理科に橋は架かるか第6講“橋を落とすものは誰か?”」(鹿野先生)、「西洋中世哲学史」(藤本先生)、「現代の哲学的行為論」(美濃先生)という題目で御講義頂いている。(吉永)

### ○ 現代思想文化学

現在、専門分野・現代思想文化学には、学部生として2年生4名、3年生7名、4年生11名(哲学・思想文化学専修所属)、大学院生として博士前期課程に5名、後期課程に4名が在籍している。浅野遼二教授が、2004年3月31日付けで退職され、名誉教授になられた。溝口宏平教授と望月太郎助教授は、2004年4月1日付けで大学教育実践センターに配置換えとなったが、文学研究科の併任教員として引き続き学生の教育、研究の指導に当たっている。同じく4月1日付けで中橋誠が助手に着任した。また2004年10月1日付けで須藤訓任が教授に着任した。これまでと同じく、哲学哲学史や臨床哲学と連携しつつ、教育・研究指導に当たっている。

本年度の講義・演習は、「ハイデガー哲学と解釈学の諸問題」「哲学とグローバリゼーションの諸問題」「E・フッサール『イデーン』読解Ⅰ、Ⅱ」(溝口教授)、「現代哲学史概説」「哲学と家族」「ニーチェを読む」(須藤教授)、「フランス近代哲学史概説」「フランス哲学基本文献読解Ⅰ」「17世紀フランス思想研究Ⅰ、Ⅱ」(望月助教授)という題目で行なわれている。(中橋)

### ○ 臨床哲学

大学院(臨床哲学)には、看護・介護職などからの社会人入学者を含め前期課程11名、後期課程5名の合計16名、学部(倫理学)は2年生6名、3年生6名、4年生11名の計23名が在籍しており、鷺田清一、中岡成文、本間直樹、紀平知樹の各教員が哲学哲学史、現代思想文化学の各教員と連携しつつ、教育・研究指導に当たっている。

本年度の講義・演習は、「コミュニケーションの臨床(3)(4)」(全教員)「臨床哲学研究(3)」(中岡)「臨床哲学研究(4)」(本間)「邦語論文購読演習」(鷺田)「モード論」(鷺田)「ひとは何を欲求するかⅠⅡ」(中岡)、「無意識、社会、身体」(本間)「現代倫理思想の諸問題Ⅲ」(本間)「倫理学と環境倫理学」、「プラグマティズムと哲学史」(紀平)、「ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』の研究」(加藤講師)「コミュニケーション倫理学の思想史的文脈」(霜田講師)「遺伝子と人間」(霜田講師)「ガダマー『真理と方法』における対話論ⅠⅡ」(高田講師)「科学技術と倫理ⅠⅡ」(稲葉講師他)「医療・生命の倫理」(霜田講師他)「生と死と生活の現場から」(霜田講師他)。

なお4月1日付けで、鷺田清一が大阪大学副学長に着任した。また、紀平が講師に昇任した。

(紀平)